

普及活動情勢報告（平成30年9月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

環境保全型農業直接支払交付金の受給者がGAPに取り組むことになりました



改善目標を考え中

9月6日、環境保全型農業直接支払交付金の受給希望者17名を対象に、高知市と普及所が連携してGAP研修会を開催しました。

普及所は、GAPとは何か、どのように取り組んでいくか等について、事例紹介をしながら説明しました。その後、高知市や普及所が助言をしながら、農業の現場で何をどのように改善していくかという目標を農家自身に考えてもらいました。

研修前には「GAPという言葉聞いたことがない」という農家が半数以上でしたが、研修後には周りとは相談しながら真剣にGAPについて考える姿が見られました。

今後も普及所は、勉強会等でGAPの実践を呼びかけ、持続可能な農業を推進していきます。

今年で6年目！きゅうり部会で意見交換会を開催



活発に意見交換中！

8月30日、新規就農者と部会、関係機関の計42名で就農にかかる課題を共有する、春野地区就農支援意見交換会を開催しました。

今年は、「中古ハウス流動化の課題」をメインテーマとし、普及所は事前の根回しや当日の司会進行を行いました。会の中では、産地提案型担い手確保対策の出口として、中古ハウスを確保していくための仕組み作りなど活発な意見が出され、今後チーム会として検討すべき課題を確認することができました。

普及所では、今後農地パトロールや営農意向調査結果を元に空きハウス情報を集め、できるだけスムーズにハウスが確保できるよう、きゅうり部会を支援していきます。

## 秋の気配が・・・ナシの収穫の時期がやって来ました



針木の新高梨は食べ頃です。

針木新高梨生産組合が、高知市針木で新高梨の食味会及び出荷目慣らし会を9月21日に開催し、生産者、市場関係、関係各機関、報道陣等約80名が参加しました。

普及所は、生産者から持ち込まれた果実の重さ、外観、糖度、硬度などを分析し、果実品質を調査しました。そして、参加者全員により行われた食味検査結果を集計し、報告しました。今年の果実品質は、肥大期の適度な温度や降雨により、果重や糖度は平年並みの13.2度と十分甘く、果肉品質は良好で、出荷を9月22日に決定しました。

普及所では、今後も針木新高梨生産組合の果実品質向上を支援していきます。

## マル朝生姜生産組合県内研修が行われました



今年のショウガは順調かねえ

8月30日、マル朝生姜生産組合員22名が県内ショウガほ場の視察を行いました。高知市春野町、土佐市、四万十町窪川、香美市および南国市と11ヶ所を視察しました。今作の生育は順調で、農家からは「茎が太くてえいねえ」、「ここのネットは張りすぎちゅう」など生育状況を確認しながら活発な意見交換が行われました。

一部根茎腐敗病が発生しているほ場がみられましたが、早めの対処で被害が止まっているようでした。今年は台風の発生が多いことから、普及所は台風対策と病気がみられた場合の適切な対処を呼びかけました。

今後もJAと連携し巡回を行い、生育状況の確認、病害診断および対策指導を速やかに実施していきます。

## 新たな5年後の農業経営改善計画を作成しました



農業者との面談

高知市では、認定農業者のフォローアップを9月13日～18日に実施しました。前計画の進捗状況を聞き、今後5年間の計画を、農業者と関係機関（市、JA、普及所）が意見交換しながら作成しました。普及所からは、技術や経営面でのアドバイスを行っています。

農業経営の状況を整理する中で、家族労働が減って規模が縮小されている方や、逆に、規模拡大や、新たに子供と共同申請を希望する方もおられます。その中で、それぞれが新たな5年後の目標に向けて、農業に取り組むことになりました。

普及所では、今後目標達成に向け、農業者の意識啓発を行い、関係機関と連携して支援していきます。